



石川遼、藤田寛之、池田勇太、片山晋呉、リー・ウェストウッド、ダレン・クラーク・・・

12月6日から9日の4日間、バンコク近郊アマタスプリング・カントリークラブで繰り広げられた熱戦。
その最終日（日曜日）の午後に出かけてこれを観戦した。

目当てはもちろん石川遼。

ギャラリーとしてつきまといながら、バーディを先行させ好調を保ちながら進んでいるのを確認し、18番ホール・グリーン回りに陣取り、これを待ちうける。

ところが、このホールのティーショットを何と池ポチャにしていたのだ。

ホールアウトし、肩を落としてグリーンを去る遼君、本当に残念。でもお疲れ様。（結果11位タイ）

そして、その4組あとの最終パーティの上がりをここで待つ。

でも、チャンピオンリーダー（チャール・シュワーツェル）と2位との間に11打も差がつけば最終ホールグリーンは幕引きに向けての儀式でしかない。

ふと見上げた空、そこはいつのまにか太陽が夕日に変わり、湖面をあかね色へと染め始めていた。

暑くて長い興奮の一日も、これで終わった。

そして、いつもの静寂と暗黒の世界がひたひたと忍び寄ってくる。